

素鷲地区タウンミーティング

平成24年1月27日（金曜）

【市長】 皆さまこんばんは、平日の夜間ですので寒い中、また、仕事帰りお疲れの方もいらっしゃると思いますが、本当にたくさんの方が集まっていたかましてありがとうございます。あさってから椿さんということで、椿さんが来るころが一番寒い、椿さんが終わったら春が来るといふ、一番寒いころの開催となりまして、体育館で皆さんお風邪ひかないかなあと心配してたんですけど、結構思ってたよりか暖かくてよかったです。さて、このタウンミーティングの開催にあたりましては、地区の広報委員会の谷川会長さんをはじめ、役員の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございます。さて、このタウンミーティングですけれども、私が就任させていただいてから始めさせていただきました。それはなぜかといいますと、職員からいいますと、市役所で皆さんから意見言ってこられるの待てるほうが楽なんですよね。でもそれでいいんだらうか、松山市内には、公民館本館でいいますと41の地区に分かれます。その公民館の地区ごとにタウンミーティングを開催させていただいて、こちらが出向くことによつて皆さんのご意見をいただく、そして、地区の魅力について教えていただくものであります。なぜ、まず魅力なのかといいますと、行政が主体で41地区のまちづくりを進めますと、41地区同じような地区ができてしまうんですよね、どこを切つても同じような金太郎あめのような地区ができてしまう、その集まりが松山市だったらおもしろくないですよね。各地区の魅力っていうのは、それぞれそこに住んでいらっしゃる皆さんが一番よく知ってらっしゃると思います。その魅力をしっかりとらえることで、その魅力を伸ばしていくとその地区はますます輝いていく。その41の集合体である松山市はますます輝くと思つておりますので、まず、皆さんに地区の魅力について認識していただく、語つていただくと思つております。そして、テーマ2テーマ3で、また皆さんの地区の課題ですとかそういったものについて教えていただくと思つております。そしてこの松山市版のタウンミーティングは、やりっぱなしにはしません、聞きっぱなしにはしませんというのがポイントであります。ある意味ここで聞いているようなふりをすると楽ですよ、でもそれは致しません。この場でお答えできることはこの場でお答えを

いたしますし、この場でお答えできないもの、例えば国と絡むものとか、県と絡むものとか、また、財政的な問題があるもの、そういうものは持ち帰らしていただいて、市役所の中で検討させていただいて、そして地区にまた返事をお返しいたします。国、県に問い合わせると、だいたい1週間くらいかかります。返事が返ってくる、市役所として方針を決める、地区にお返しするというので、だいたい1カ月くらい目安をいただくという形になるんですけど、必ず返事をお返しすることにしております。やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのが、この松山市版のタウンミーティングでございます。そして、41地区、市長の任期は4年間です。1カ月に1回ずつまわっていかうと思ってたんですけども、おかげさまで皆さんの声をすぐに反映することができる、今日で17カ所目ですけども、すでに事業にしているものもあります。そして新年度4月からの事業化をしようとしているものもありますので、おかげさまで好評でありますので、ペースを上げて1カ月に2回のペースで今はまわっております。職員にはもう1つ負担をかけてるんですけども、頑張っていこうということで、それこそ坂の上の雲、目標に向かって頑張っているところです。さて、私の話がちょっと長くなりましたけれども、松山市の仕事は幅広い範囲に及びます。専門の担当部長そして課長たちを連れてきておりますので、紹介をさせます。

【市民部長】 皆さん、こんばんは。市民部長の三好龍彦と申します。普段の業務としましては、例えば市民課、出先であれば支所、パスポートセンター、消費生活センター、こういった市民サービスの最前線で、サービスの向上のため頑張っております。そのほか、まちづくり、安全安心の取り組み、人権啓発こういった仕事をしております。本日はよろしく願いいたします。

【都市政策課長】 皆さん、こんばんは。都市政策課の白石と申します。都市整備におきましては、道路、公園などの改良、また維持管理を行っております。どうぞよろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆さんこんばんは、保健福祉政策課長の大濱でございます。保健福祉医療全般を担当しております。本日はよろしく願いいたします。

【産業政策課長】 こんばんは、産業政策課の中西といいます。産業経済部では、地域経済、雇用、あるいは観光振興のための事業、農林水産関係の事業もやっております。どうぞよろしく願いいたします。

【生涯学習政策課長】 生涯学習政策課長の青木と申します。教育委員会では、学校教育あるいは公民館といった社会教育、あるいは文化財そういった分野を担当しております。どうかよろしく願いいたします。

【消防局総務課長】 皆さんこんばんは、消防局総務課長の岡本です。消防、防災、自主防災組織、救急全般を担当しております。本日はよろしく願いいたします。

【市長】 という、私と6人の部長課長たちでございます。今日、1時間半でありますけれど、肩ひじ張っていると疲れてしまいますので、1時間半ですのでどうぞ楽に、気楽にさせていただいたらと思います。また、2番3番、テーマと違うんじゃないかとか、あまりテーマとか気にせずに、いろいろとお話をさせていただいたらと思います。今日は皆さんと前向きの議論ができたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 素鷲地区の魅力について10年近く役をやっておりますので、いろいろと県や国へも話した経緯はあるんですけど、石手川の河川敷のアシがかなり生えておりますので、撤去についてお願いをしたいと思います。最近は小学生児童の立ち入りが禁止になっております。というのはいろいろと危険物があつたり、蛇がおつたりしますので、素鷲地区の児童は石手川には立ち入りしないようにと、学校側の指導もありますので子どもは入っておりません。石手川ダムができるまではかなり水が流れておりましたので、我々70代過ぎた高齢者は下校したら、石手川で魚をとったり遊泳をしたり、楽しみの河川敷だったと思います。それが今はできない状態になっておりますので、なんとかアシを取り除いてきれいな水が流れる石手川にさせていただいたらと思います。問題は1級河川になっておりますので、県と国の関係があろうと思います。ちょうど私、日の出町、新立橋の近所におります。新立橋の上、橋のちょうどたもと、それから新立橋の西200メートルくらいのところに樹木が4、5本生えました。これはちょっと見苦しいというんで、県に相談して撤去していただきました。今考えるのに、洪水のときだけ石手川が流れて、石ころ岩石が下へ流れる状態になっております。ですから何とかアシを取り除いていただいて、きれいな石手川にさせていただいたらと思います。新立橋の東、南側の河川敷が今、県で倉庫等撤去をされて整備事業になるように聞いておりますけれども、日の出町の私の地域のボランティアが4、5

人おいでまして、石垣を組んでくれたりして新立橋の東の、南側の河川敷が本当にきれいになっております。こないだも市の公園緑地課の方が来られて「これは玄人の方がしたような石垣だな」こういうふうに褒めていただきたいきさつもありますので、なんとか石手川の川をきれいにしていただきたいと思います。

【市長】　そうですね、まず石手川のことについて魅力をますますアップしていきたいというご意見いただきました。今日、石手川の計画を持ってきましたので、ご覧いただこうと思います。魅力をもう少しいただいてからにしましょうかね。

【男性】　この2、3年で感じてることを発表したいと思います。機会があつて素鷺小学校によく行きます。素鷺小学校卒業生なんです、校歌を振り返ってみますと昭和12年に林さんという作詞で、作曲が有名な平井康三郎先生の歌ですが、1番2番3番とあつたそうなんです、1番はなんか古めかしい言葉が続いているので、除いて2番が1番になり3番が2番になった。その文句の中に、素鷺の力合わせて行いなんでもやると、父母を敬う、2番は素鷺の子心合わす。今の時代にぴったりだと思ふんです。それが今始まって75年ですね、それをひいとる、館の事業推進にはそういう精神が宿っていると思ふんですが、まずは社協の方、広報委員の方、民生の方、女性団体の方、または素鷺の別の体協の方、何をやってもものすごい。昨年度から絆、絆と言いますが、素鷺では輪をもってどの事業もスムーズにやっていただける。特に女性団体の方の役割分担とか推進していく力、ものすごい素晴らしいと思つて、公民館活動進めていくには非常に助かつてこれました。今度4月からは1年間の経験を活かして、ちょうど今日タウンミーティングの「笑顔あふれる素鷺をめざして」というモットーにして、明るく楽しく元気よくやってください。今は防災のこともありますから、何をやっても事故なく明るく楽しく元気よくというのをモットーに、住民の方引っ張っていきたいと思つております。なんか魅力いうたら神社仏閣とかいろいろありますが、特に2つだけ発表したいのは、日の出町というのが大正15年に松山市と一緒になつたときに生まれたそうですが、和田重次郎さん、日の出町の出身で親孝行でアラスカ開拓に活躍されたと聞いております。それと5代目の松山市の市長さん、こちらの出身ではないんですが拓川町の相向寺の住職と「自分がなくなったら相向寺に骨をうずめたい」と言うとおりの、拓川町に眠られとるそうです。拓川というのは加藤恒忠さんの雅号で、拓川というのは石手川と書きますね、手偏に石で川

で。それからきたそうなんです、その2人の偉人、活躍を魅力と感じて、またあとは先ほど言いましたとおり、笑顔あふれる素鷺をめざして、今までの皆さんのやってきた、輪をもって頑張る人づくり地域づくりに尽くしてもらえらると思っておりますので、皆さん意気を魅力と感じておることを発表させていただきたいと思っております。

【市長】 では私のほうから。そうですね、つながりがあるっていうのは本当大事なことだと思うんです。素鷺は街中ですけども、このつながりが深い、素鷺はつながりが深いというのはよくよく聞いております。これいいところだと思うんです。個人の個ですとか孤独の孤というのがものすごく言われる時代になってきました。そうじゃなくて、私は昔のつながりのある、言うたら昭和の時代、その昭和の人との結びつきがあったころにまた戻せればなと思っております。そういう、つながりが素鷺には残っているのはすごい大事なことで、引き続き残してもらいたいと思っております。個人の個、孤独の孤じゃなくて、コラボレーションとかコミュニティとかコミュニケーション、全部「CO」で始まるんですね、まあこれも言うたら「CO(こ)」ですけど、それがこれからは大事になるって言うてる方もいらっしゃいます。私も和田重次郎さん、今銅像ができてますけども、親孝行だったところが大好きですね。加藤拓川さんのことももちろん存じ上げております。そして、石手川の魅力も磨いていきたいと思っております。今日、時間があればお話しできればと思うんですが、これからは、松山は歩いて暮らせるまちづくり、歩いて楽しいまちづくりなんです。そのためには何があったらいいかって言ったら水と緑なんです。まさに石手川にはありますよね、この石手川公園のことについて、これからの計画がありますので都市政策課の課長から。ちょっと私から先に言うと、今石手川は9年計画で、石手川の緑地帯、石手川公園をきれいにする事業をやっております。今9年計画の6年目に入っております。このことについてご説明をさせていただきます、今年度は末広橋から中央公園まで、この北側について工事をやってまいりました。これからのことは白石課長お願いします。

【都市政策課長】 石手川の整備につきましては、平成18年から全長は約6キロ、市坪橋から岩堰橋の間におきまして整備に取り組んでおります。そこでこの黄緑色（新立橋から末広橋の間）につきましては、すでに整備が完了してござい

す。また今年度この水色、市坪橋から末広橋の右岸につきまして事業を行っておるところです。また来年度は茶色の部分（湯渡橋から上流）につきまして事業を行う予定でございます。また今回の素鷲地区、先ほどボランティアの皆様によってかなり整備していただいておりますが、この黄色の部分（新立橋から上流）につきましても25年から26年度、県で不法占有物件が撤去できましたので、県が護岸整備を行った後、市が公園整備をする予定としております。

【市長】 どんなことができる場所になりますかね、石手川公園これから。

【都市政策課長】 そうですね、それで公園にも丸で印してるんですけど、6カ所駐車場を計画しております。その中で、石手川6キロの範囲内を「集いの草原エリア」「都市の森エリア」「四季の森エリア」という3つの大きなエリアを区分しております。素鷲地区は「都市の森エリア」ということでかなり立派な樹木もあります。またここではバスケットコート等も計画しております。またこちらの部分（新立橋から上流）につきましては「四季の森エリア」ということで、例えば地名に沿ったもみじを植えてたり、桜とかいろんなことを計画しております。

【市長】 アシのことについてはどうなりますかね。

【都市政策課長】 アシにつきまして、石手川につきましては県の管理でございます。愛媛県と地元の皆様、松山市で石手川環境美化協議会をつくっております。そういう中で、また県に対して要望をしていきたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

【市長】 私も清水小学校ですからお城の北の出身なんですけど、やっぱりちっちゃいときは、大川とか川で遊んだ経験がよく覚えてますよね。できたらそういうふうには危険があるといけませんけれども、人々が憩える場所にしたいと思っております。石手川沿いは例えばバイクがずらっと置いて通りにくくなってるというのも聞いておりますので、そういうことにならないように駐車場も整備したいと思っております。私があんまり長くしゃべりすぎてもいけないので、データを紹介させていただきます。今皆さんも、国が1千兆円の借金を抱えているっていうのをよく聞きますよね。これ日本の人口1億人で割ると1人がだいたいどれだけ借金を抱えているってわかりますけれども、そうなる国から地方に、地方交付税交付金とか国庫支出金という形でまわってくる。でも国で1千兆円借金持ってたならなかなか地方にまわってくるお金が増えるのは考えにくいですよ。

ですから限られた財政の中でやっていかないかん。よく言われる、国では国民ひとりひとりが1日3千歩歩数を増やしたら、国全体で2,700億円の医療費を削減できますっていうデータがあります。これはおじいちゃん、おばあちゃん、すでに腰が痛い、ひざが痛いって人を歩け歩けっていう話ではなくて、歩ける方は、東京なんかだったら地下鉄の移動でもものすごく歩きます、でも松山は比較的車中心ですからやっぱり歩かないんですよ、東京と比べたら。でもひとり3千歩歩いていただけたら2,700億円医療費が削減できる。2,700億円削減できたら、ほかの事業できるんです。ですので、歩いて楽しいまちづくりというのを申し上げているわけです。おじいちゃん、おばあちゃん、歩け歩けもう足痛いのひざ痛いの追いやるのではなくて、歩ける方は歩いてもらいましょう、歩いたら発見もあるし健康にもつながっていかうかと思います。じゃあ課題に入っていきますかね。

【男性】 昼間はグループホームで働いておる介護職員です。高齢者福祉について、今、日本の認知症の数がおよそ270万人か280万人と推定されてます。2025年にはおよそ350万人から360万人になるという厚労省のデータが出てくると思うんですけど、今後、認知症のサポーターをどのように育成していくか、地域で、やっぱり市民に共有する必要があると思います。さまざまな犯罪とか事故とか事件とかが増える傾向なので、松山市がもうちょっと積極的に認知症サポーターの養成をすとか、あと成年後見人制度をもっと広めて、悪徳商法とかいろんな被害に遭わないためにもうちょっとそういうのを設ける必要があるんじゃないかと思います。私自身、今、仕事以外にボランティアで聴覚障がい者の高齢者の方をアウトリーチというか定期訪問とか、定期診療してるんです。行政の悪口を言いたくないんですけど、もうちょっと訪問以外でも声をかけるようにすればいいんじゃないかと思うんですけど、なかなか行政は変わってくれないし、その中で民生委員を批判するわけじゃないんですけど、41地区の900人余りの民生委員がおいでだと思うんですけど、全員が本当に使命感を持って地域のためにやられているかどうか問題なんです。使命感を持って地域のために活躍されてる方もいるんですけど、ある人はただ名誉職で終わらせているとか、肩書で済まされてる民生委員がいるのは事実なんです。もう少し行政からの指導というか勉強会を開いて本当にやってほしいんですよ。そのために地域がよく

ならないんですよ、民生委員さんとか各役員さんに自覚を持たすために。そうすれば少しでも地域がよくなってくるし、皆さんやっぱ助け合いというか、ひとりひとり支え合う仕組みが大切かなと思います。そしてあとは、最終的にはケアマネージャーとか手話通訳士とか精神保健福祉士とかグレードアップして、専門以外にも地域で役立つ従事者目指してしますので、今後ともよろしくお願いします。

【市長】 高齢者の福祉について、松山市どんなことやってるかということからふれさせていただいて、大濱課長から付け加えて。素鷺地区を例にどんなことをしているのかを申し上げさせていただきます。まず市がやってる取り組みとしては、65歳以上の独居の高齢者が安心して暮らせるように独居高齢者みまもり員がおりまして、定期的に声掛け訪問などの安否確認を行っております。素鷺地区は33名おいでまして、訪問世帯数が592世帯あるということで、その方々がまわってくださっております。そしておおむね65歳以上のひとり暮らしの方や高齢者のみの世帯等の電話の横に緊急通報装置を置いて、緊急時には受信センターが救急車を呼んだり、普段は健康の相談を受けるというのをしております。これ対象者84名です。あとは配食サービス事業とか乳酸菌飲料を配布する際の愛の一言訪問事業、地区の社会福祉協議会の協力会員が生活支援に関するサービスなどを提供する地域福祉サービス事業、あと、毎年9月に老人週間がありますけど、100歳以上の高齢者の方を民生委員などが訪問して、記念品をお渡しするとともに安否の確認を行うなどしております。これ個人情報が難しいところがありまして、両面があるんです。もしお倒れになったりしたらいかんので、倒れたら話ができないですから、そういう世話をしてくださる方には個人情報がある程度提供してもいいんじゃないかっていうことと、あまり個人情報提供しすぎたら、この方が悪いとかちょっと痴ほうがとかそういう情報を提供していると犯罪に巻き込まれる恐れもあるので、全部が全部公開できないところもある、そんな現状があるんですけども、大濱課長から補足を。

【保健福祉政策課長】 先ほど市長が申しました事業に加えて、認知症サポーターの件についてですが、松山市は社会福祉協議会あるいは地区連合会みたいな組織と連携を図り、松山市全体で認知症の方のサポートをしていく、企業にも声掛けをしたり、あるいは警察、郵便局、こういったところとも連携を図りネットワークづくりをして松山市全体、あるいは地区で皆さんを見守っていきたいという

活動を進めております。まだそういった面が皆様のお目にかかっていないんだと思いますが、そういったことを今進めておりますので、もう少しお待ちいただけたら、そういったネットワークで今以上あるいは地区でそういった方のサポートをしていく制度も今準備を進めておりますので、もうしばらくお待ちいただけたらと思います。それと成年後見の件についても、立ち上がって間もない成年後見制度でありますので、こういった制度も踏まえて、松山市がこういったサポートができるかという、今、成年後見自体は制度が動いていますけど、より幅広いサポート体制についても協議をしておりますので、しばらくお待ちいただけたらと思っています。また今年になって新聞でも報道されたんですが、安心キットを社会福祉協議会から必要に応じて、独居老人であるとか障がいのある家庭に民生委員を通じてお配りをしておるとしています。これはこのシールを冷蔵庫に貼っていただいて、中に、例えば常備薬とか、私はこういう病気があるとかいうことを書いて冷蔵庫に入れておいたら、もし何かで例えば救急車、あるいは近所の方がサポートする場合にも、このシールを冷蔵庫に貼ってあれば、冷蔵庫の中にあることがすぐに分かって救出がしやすい、あるいは病院、救急隊にその情報がすぐに伝わると。実は今年になって2件ほどこのシールを貼ってて速やかにそういったことができたという事例もございます。そういった皆様のサポートをするための事業も進めております。そういったことをご理解を賜ったらと思います、よろしく願いをいたします。

【市長】 この高齢者の問題は日本全体の問題です。今申し上げたように皆さん言うてくださったように、思いのある方、民間の力、やはり行政だけではやれること限られますから、そういう民間の方、思いのある方の力もいただきながら、そして先ほど安心キット、このような取り組めるものからどんどんやっていきたいと思っていますので、またいろいろとご提言をいただけたらと思います、よろしく願いします。

【女性】 2番の高齢者福祉の問題で市長さんにぜひともお願いをしたい件ございます。実は私もあれいいただいて安心キットで冷蔵庫に貼っている1人なんですけど、ありがたいと思っています。お願いしたい件は、単刀直入に申し上げまして、特別養護老人ホームを素鷲校区につくっていただきたい、この1点です。市にもお願いに行ったりしたんですけど、お話しうと素鷲校区は施設の充足率が

よそに比べて低くないので素鷺は計画に入っていないと言われてまして、「ええそうかいな」ということで私たちは手分けして調べました。素鷺校区の中には有料老人ホーム、老人ホームの関係9カ所ございまして、いずれも民間のもので、最低13万とか15万とかいるんです。私たちの中では国民年金だけで生活している方もたくさんいらっしゃいまして、6万くらいです。ですから私たちの願いとしましては、国民年金で生活している高齢者も安心して入れる、つまり所得に応じて入れる老人ホームをぜひぜひつくっていただきたい。やっぱり、近くにあるほうがいいですよ。確かによその校区には堀江だとか道後だとかあるんですけど、入っとる人おるんですけど、やっぱり近くでお友達がいて出たり入ったり、そういうところがいいと思うんですよ。年をとるとよそへ行くというのはとてもつらいことなんですね。ご存じのように素鷺校区は高齢者も確かに多いんですけど、特に独居老人、私もその1人なんですけど、独居老人の数が41校区の中で断トツに多いんですよ、たぶんご存じだと思うんですけども。そして、低所得層が多い校区ですので、今5カ年計画の策定、審議中だと思いますので、ぜひともぜひとも素鷺校区につくっていただきたい。私たちは署名運動もしまして、みんなの意見聞いてるんですけど、本当に声なき声なんです。ここによろ来ないようなお年寄りの皆さんが普段はいいんですけど、手足動かなくなったり誰も見てもらえない者がいないという場合に、安心して入れる施設がほしいという願いを持っておりますので、署名もどんどん広がっております。確かに今の介護保険制度自体が矛盾があってなかなか財政的にやりにくいと、大濱課長のお話聞くと、市独自で松山市でそういうものは必要だとか、例えば野志市長が素鷺校区につくろうと5億とか10億とかかけてつくっても、国から1銭も補助がない、そんなことはできにくいでしょと言われるんですけど、私は野志市長さんの心意気でぜひとも全国の模範になるような、低所得者が安心して入れるところを素鷺校区につくるというご決断をぜひともお願いしたいと思います、よろしくお願ひします。

【市長】 これはですね、私も「はいわかりました、やります」と言えれば楽なんですよ。これが高度経済成長の日本全体の経済も上がっていく、行政も税収が上がっていく時代だったらできたかもしれない。でも先ほど申し上げたように厳しい財政の中でやりくりをしないといけないので、私も「はいわかりました、やります」って言えたほうが楽なんですよ。市長の人気取りのためにはそのほうが

楽なんですから。でもそれをよくよく全体計画の中でやっていかなくてははいけないという事情があります。それはもし私が「はいやります、各地区でやります」ってやってしまったら、これは将来の子どもや孫にツケを残すことにほかならないからであります。だからといって何もしないわけではないんですよ、選択と集中でこれは今やっとかなくてははいけないものはやります。例えば松山外環状道路とか、これは今やる例として1つだけ申し上げますけども、松山のインターチェンジから空港までの間が30分以上かかるんですね。外を歩いていけばいいものをわざわざ松山の交通は中に入ってくる形になっているからです。全国の24の拠点空港のデータ調べたんですけど、インターチェンジと空港の間が30分以上かかる場所は全国で4つだけ。その1つが松山空港、あとの3つは北海道の空港です。それは北海道はかかるでしょうね、広いから。そういうデータからもわかるように、松山は時間かかりすぎてるんです。わざわざ中に入ってこなくていいように、外をまわらしましょうっていうことで、松山外環状道路をつくっているところです。だから必要なものはするんです。そういった中で全体計画のことを大濱課長から。

【保健福祉政策課長】 よく行政のことについて勉強をいただいてありがとうございます。先ほど申されたように松山市では平成24年から26年までの3カ年の計画として、現在第5期の松山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定中です。この中で特別養護老人ホーム、整備数の検討も行っております。また策定された事業計画に基づいて24年度から特別養護老人ホームの整備に着手をしていきたいと考えておりますが、施設整備につきましては公募により民間の力を貸していただきまして進めたいと考えております。そうした中で国の指針を踏まえ、公募の年度に例えばリハビリが必要な方が主に入所される介護保険施設、あるいは食事や入浴などの日常生活の中で介護、あるいは機能訓練の必要な方が入所される施設、居住系のサービスと言います、こういったサービスの充足率を低いほうから整備をしていく計画をしております。ただ、素鷲地区は低いほうから見ても、現在のところ13番目になっております。こういった中で道後、八坂、三津も、より低いことになっておりまして、民間の土地あるいは施設整備に条件も必要になりまして松山市独自でここに、素鷲をお願いしますということにもなりませんのでご理解を賜ったらと思っております。ちなみに特別養護老人ホームにつ

きましては現在7施設ございまして、残り18地区には全くございません。道後、八坂、番町、東雲も全くございませんし、こちらのほうが充足率も低いということもございまして、今のところ素鷺限定の特別養護老人ホームをつくることは非常に難しいと考えております。

【市長】 今話を聞くと道後、番町、八坂、東雲あたりは可能性があるのかなという感じですね。今おっしゃられたように、本当ちょっと遠くになると行きにくいというのはコミュニケーションもなくなってよくよくわかりますので、今の感じからすると、地区の名前で言うと道後とか八坂とか番町とか東雲のあたりがあがってます。比較的素鷺から近いですかね。

【女性】 すみません、その充足率といいますのが、意見があるんですけど、分母を介護度4とか5とかの人数、分子が素鷺校区にある介護のベッド数の率って言われたんですけど、例えば、所得の少し高い人たちが素鷺の9カ所ある施設の中によそからいっぱい入られて素鷺の人が入ってなくてもこれは施設が充足しているっていうことになるのでしょうか。

【保健福祉政策課長】 はい、充足率というのは松山市全体あるいは建てられたところのベッド数とか対象者の人数で決まります。ですので校区に必要な方が何人おるかということではないんですね。松山市全体をとらえておりますので。

【女性】 所得が低い層がたくさん密集しているこの近くに、やっぱり特別養護老人ホーム、今は小型の30床以内ということになってるかと思うんですけど、それでもいいからつくってもらいたいというのが私たちの切なる願いなんですよね。よろしくお願いします。

【男性】 私、町内会長をしております。よろしくお願いします。私の地区も、松山市全体が高齢化と言われておりますが、小さい子どもがもうほとんどおりませんのでほとんどお年寄りの町になっております。松山のすぐ近くのところなんですけれども、年とった方がいっぱいだと。その年とった方を家の中に閉じこもっておいては困るので、何かしましょうというのが事の発端なんです。私のまちでできることですからほかのまちでもできますので、こんなことをやってみてはどうですかという方が強いんですけども、2年前にサロンというのを、つくるときには私も「嫌やで、こんな面倒くさいことやったら後大変やな」と思ったんですけども、去年までは月に1回だったんですが、今年2回にして担当する人もや

っぱり準備をしたり何かするので町内でやっておるんですが、大変ですから両方がうまくいけるように。来る人も喜んで来てくれるものをつくらなければならないのでやってみたら、今のところ順当にっております。ただ私が今仕事に出ておりますので水曜日にするようになっておりますから、活動の内容がよくわからないのがちょっとだめな部分なんですけれども、サロンどんなことでも構いませんからお年寄りの方が家におらないで公民館、分館なんかが開いとると思いますから、呼び掛けて活動をされたら、うちは小さなまちなんですけど、かなり活性化ができたと思います。ほかのまちもやられたらどうですかと。もう1つこれは要望ですけど、立花二丁目は小さなまちなんですけど公園がないと言いますか、屋外活動するのに非常に不便なんです。例えば防災訓練しようと思すと今は立花フジのところに最初にみんなが集まって、それから第二避難所はここかそれから石手川、津波があったらどこまで来るのかちょっと心配なところがあったんですが、つくるときにはちょっと川だけでも、天井川みたいになつとる川だからそこに第二避難所つくりましょうと。昔の避難の地図の中には石手川が入ってましたから入れておるんですが、ただ、外に出て活動するときにはちょっと広場が欲しいんですよ。公園のような。30人とか50人とか集まりますのでそういう場所が欲しい。フジでは条件がくっつきますので。それからここに来るとか、どこか行くとか。前に市議につくってくれませんかとお話はしたんですけどなかなか難しいそうなので、今はこれでやっていけてはおるんですけども、できたら何かできるようなことがあったらお願いしたいと思うんです。以上です。

【市長】 今、サロンのことについてお話がありました。これ皆さんにも知っていただきたい。利用できたらしていただきたいと思うんですけど、ふれあいいいききサロンがあります。これは何でつくったかと言いますと、お年を召した方が家に閉じこもりがちになってしまうので、できるだけ人と接していただこうと、女性だったら手芸教室であったり、男性だったら囲碁をしたりとかそういう集いの場としてつくっております。おかげさまでいい形でご協力を得てまわってる、最近。女性が8割、男性2割だったんですが男性が少なかったのふれあいサロン農園をやり出しまして、これは前の仕事のとときに会社に行くとき自転車で行ってたんですけど、農園があると男性の方がすごく楽しそうに農作業してるんですよ。たまに子どもも来て子どもも楽しそうにしてる。じゃあ男性が少ない分農園なんかすると男性の参加が増えるんじゃない

いかってやると男性の参加増えました。夫婦での参加も増えました。ですのでふれあいサロン農園いきいきサロン、こういったものまた活用いただいたら閉じこもりがちなならないのでいいかなと思ってます。公園のことについては都市計画が絡みますかね。あと、白石課長に都市計画のことについて、その前に岡本課長、津波はどれくらい石手川では上がってくるという想定、これ何かありましたっけ。

【消防局総務課長】 消防局の岡本です。今の津波の件ですが、素鷲地区は標高が20メートル以上ありますので恐らく南海地震の津波の影響はほとんどない、また石手川、重信川遡上してもここまでは来ないと今の段階では想定しております。ただ、今、国が指針等の見直しをしておりますので約倍程度にはなろうかと思いますが、そのときでもほとんど影響はないだろうとは思いますが、その指針が変わりましたらまた皆様にお知らせをするようにいたします。

【市長】 地震のことについては、皆さん「過ぎたるは及ばざるがごとし」なので、心配し過ぎるのもかえってよくない。というのが、津波の高さ、速度というのは海の深さと関係するんです。瀬戸内海と今回の太平洋の海の深さは明らかに違います。ですから心配し過ぎることはないんですけども、だから大丈夫というのはこれよくないので必ず気をつけていただく。そういう地震が起こった際には気をつけるかも知れない、津波がくるかも知れない、そういう気持ちを持っていただくことは必要です。皆さんの家に防災マップを配っているんですけど、これ「この表紙を見たことあるよ」って方、手を挙げてもらえますか。ありがとうございます。「中身までしっかり見たよ」という方手を挙げてもらえますか。ありがとうございます。結構減るんです。で、これ去年の3月に配ったんですけど、その後東日本大震災が3月11日に起こったんですけど、それでこれが全部無駄になった訳ではないんです。役立つことがいっぱいあります。1枚目めくると「松山市民に聞きました。何らかの災害に遭遇すると思ってる人75パーセント」4人に3人の人が何らかの災害に遭遇だろうと思っている。でも、地震に備えて家具固定をしてる人はわずか19パーセントなんです。皆さんあんまりされてないので、ぜひともこの防災マップを見ていただく、備えをしていただくというのをお願いいたします。

【都市政策課長】 公園の整備につきましては皆様の触れ合える広場であったり、防災面の避難地であったり非常に公園の役割は大きいと思います。また、従来か

ら公園の整備につきましては用地買収という形で整備を行っているところですが、用地買収するとかなりお金が必要になってきます。そういう中で今後は例えば借地とかいう形で公園整備に取り組んでまいりたいと思いますので、適地があれば、またご相談させていただきたいと思います。

【市長】 都市計画の見直しをするのでだいぶしやすくなるんですかね。

【都市政策課長】 都市計画の見直しにつきましては昭和42年の素鷲地区土地区画整備事業が現在も残っております。これにつきましては、ご存知の通り戦災復興事業が昭和39年に完了しました。その後市内に近接して新興住宅地であった素鷲地区を良好なまちづくりしましょうということで土地区画整理事業を42年に計画しました。しかしながら地元説明会に入りました昭和44年、地元の反対に遭いまして断念したと。で、今現在まで放置されている状態でございます。そこで、国の方針ですけど、都市計画道路、都市計画の区画整理事業というのは将来20年、30年後を見たまちづくりの計画でございますので簡単には計画を廃止するとか見直しすることができなかつた状況でございます。それで現在素鷲地区土地区画整理事業は残っているんですけど、国から一定の指針が出ました。長期間放置しているといろいろ制限がかかりますのでいろんな面で不便がございます。そこで、今現在愛媛県と協議を行っております。また、昨年より改良区、また広報委員にはご説明はさせていただいたんですけど、素鷲の土地区画整理事業につきましては、廃止の方向で今現在協議しております。また、24年度早々にはそういう形で開始になろうとは思いますが、それまでにこれから3月、4月にかけて地元の説明会を行い、皆様のご理解を得て廃止に持っていきたいと考えております。そこで区画整理事業は良好な市街地を形成するという中で、仮に廃止した場合に道路とか公園とかが不足している地域がございます。そういう地域を廃止するわけですから、何らかの手当てが必要になってこようと思います。それを今後、説明会等を通じて皆様とともにいろいろ考えて、何か取り組むことがないかを研究させていただきたいと思います。

【市長】 ざっくり言うと国の方針で、都市計画の見直すのは慎重に慎重にやってきたんです。あんまり変えたくない、そういう形だったんですね。でも、ようやく国もずっとほったらかしになってるところはいかんということで、見直しもよしということになりましたので松山市はその都市計画は廃止する。来年度、4月

以降は廃止に向けて、はっきりとは言えないですけど6月ころに。これからは要望を受けて道路や公園の整備がしやすくなるということですので、先ほど白石課長が申し上げたように借地のことも含めて考えていこうという形になります。今よりちょっとやりやすくなると思います。

【女性】 皆さんや市長さんたちご存知かと思いますがけれども、アクロス重信がなくなりまして、今、子どもたちの間でプロの選手も出てすごく関心があるところなんですね。それで、市役所に石手川の河川敷にコンクリートを敷いていただいているんです。それで申し訳ないんですが、コンクリート敷きっ放しじゃスケートボードはできないんですよ。だから、U字型のがあってくれたらもうそれはそれだけで十分いけると思うんです。あと、福岡中心として他府県や西条市それから小松町はテーマパークとしてもう開発してあるんですね。そこまでしてくれなくてもいいからせめてU字型にしてくれと。それくらいのコンクリート代を別に基金も集めてるんです。実質150人くらい署名はいつてるはずだし、それから今の子どもたちと言えばインターネットやゲームとか、あとスケートボードをやる場所がなかったら夜の大街道とか高島屋の前、そんなところでやってしまうようになるんです。私なんかは表で遊んでいた愛媛県の育ちなんで、やっぱり陽の当たるところで子どもたちを遊ばせてやりたいということもありまして、ああいう思い出があったから愛媛のために何かしよう、そういうので過疎化とかも防げると思うんです。もう本当にそれだけで構いませんので、子どもたちに残してやる何かを考えていただきたいんですけれども。

【市長】 アクロス重信。私からお話しをさせていただきます。実は松山市も、修学旅行を誘致しております。アクロス重信、東温市、お隣の市ですけど、大洲市のう飼いとか東温市のアクロス重信を修学旅行のメニューの1つに入れて実際に来てもらってすごい好評だったんですよ。で、私たちもなくなってすごく残念なんです。でも「じゃあ松山市援助せんかい」ってお話しをされるかもしれませんが、お隣の市の経営状態が悪くなった会社にお金を入れるというのはなかなか松山市民の理解は得にくい話で難しい。でもこれまでも青野令君とか藤田君とか素晴らしい選手生み出しているのですキー連盟への助成として毎年100万円の援助はしてきたんです。その形だとやっていけるのでやっていこうと思うんですけれども、逆にコンクリートのU字型、私素人なんでよくわからないんで

すけど、コンクリートだと雪と違って痛い、大丈夫ですか、けがとかは。

【女性】 そういうスポーツなんですよ。

【市長】 少々けが大丈夫なんですか。

【女性】 はい。

【市長】 雪だとクッションになって大丈夫じゃないですかね。

【男性】 石手川の末広橋の西の。

【市長】 ありますよね。

【男性】 あれの整備されたものということでしょう。

【女性】 そうですそうです、はい。

【市長】 コンクリートの整備でいいんですか。

【女性】 はい、もし、ご存知なかったら You Tube でスケートボードいくらでも出てきますので見て下さい。

【市長】 ある程度は知ってるんですけど、コンクリートでも大丈夫なんですか。

【女性】 はい、大丈夫なんですよ。

【市長】 もう本人の責任のもとに。

【女性】 はい。

【市民部長】 ハーフパイプのことですね

【女性】 そうです、そうです。

【市長】 市民部長これは。

【市民部長】 所管が複雑で自信がないので持ち帰らせていただきますけど、多分昔大街道とか深夜遊んでる若者たち排除するのではなくて、その方たちもできるような場所であそこの石手川整備したんですね。でも、多分おっしゃられたことはあれじゃ刺激がない。ただ滑るだけではなくて、ハーフパイプのような形のものを整備して欲しいとおっしゃられているんですね。今のご要望について今、答える自信がないので持ち帰らせていただいて、所管課でもう1回検討させていただいてお答えさせていただくことでご了解いただけますでしょうか。いろいろ危険の問題とか行政がどこまでできるかとか、いろんな検討することがありますのでそのあたりすみません、持ち帰らせていただきたいと思います。

【女性】 わかりました。

【市長】 今日高齢者の福祉の話とか結構多かったですね。

【男性】 民生委員と社協の関係やっておるんですが、だいぶ話も出尽くした感じですが、ご存知のとおり素鷺は、独居高齢者、また生活保護者が数多い。どんだけ多いかと言うと40地区ほどある中で一番多いという状況の中で、我々、私は平成元年から20何年やっとなるわけですが、もう少し民生委員を増やすことできないかというのが1つあるわけです。しかしこれは厚労省の関係ですからすぐにはいかんと。それは重々わかっておりますので、みまもり員に対してこの前お願いしたんです。早速増やしてもらいました。それで素鷺では、今現在33名になったわけですが、これはお礼を言いたいということで今ちょっとマイクを貸してもらったんです。それと先ほど市長が言われた、歩きの問題ですね。実は私も去年、お城下ウォーク行きました。日頃運動してないからしんどかったんですが、そのあと里山ウォークこれもまた来年も再来年もやってもらいたいなど。これは素鷺地区の問題じゃなくて全体のことで申し訳ないんですが、お願いしたらと思っております。よろしく申し上げます。

【市長】 ありがとうございます。松山市はウォーキングイベントをよくやっているんです。歩くと健康につながるというのと、地区のことをよく知ることができるんです。やっぱり歩いたら発見することがありますよね。日頃自動車ではきづかなかった句碑とか碑にきづいたりして、立花橋は元々堯音さんというお坊さんがつくられた橋とか、そういうのも知ることができると思います。

そしてみまもり員、月々お渡ししているお金は千円です。皆さん、少ないって思われるかも知れませんが。私も最初そういうお話を受けまして、担当に来てもらって「千円はあまりにも少ないんじゃないんですか」って話をしたら、違うんですよ、これボランティアという感じで千円なんですけど、例えば、仕事という感じで一万円になったら、もしそのみまもり員の方が独居の老人の方がお亡くなりになってた。それを発見できなかった場合、一万円も渡しとんに発見できんのかと責任のほうに行っちゃう。それがあるので報償費、ボランティア的な意味で千円。みまもり員さんを増やそうという形で今増やしたという経緯があります。先ほども言っていたように民間の思いある方の力もいただきながらこの高齢者福祉については向かっていこうと思っております。

【男性】 ちょっと道路行政についてお願いがあるんですけど、素鷺地区の道路が一向に広がらんのですよ。家は相当新築になっとなるんですけど、道路が4メー

トルならんのですよ。私町内会長のときにごみステーションをつくってくれ言ったときに通り抜けができる道路じゃないとステーションをつくれんとか、Uターンではいかんとか、Tの字になつとるけんここでバックしてUターンして出たらよかろが言うたら、バックしたとき事故したらいかんとかいろいろ制約があつて一生懸命4メートルに広げようとして、結局何条ですかね、家を建てるには4メートル道路に接する必要があるが、ある家が南側と西側に道路があつて、南側の道路を4メートル確保していれば、西側の道路は4メートル確保する必要がないから、西側の道路を広げる必要がなく、西側の道路が道路としてできないということでもめたことがあるが、市のほうで建築確認をした段階でセンターから2メートル引いたらあとは市が道路としてすぐに舗装するとかいう施策はできんでしょうかね。

【都市政策課長】 ただいまの建築後退の部分なんですけど、舗装等はできます。

【男性】 舗装じゃないんです。市として管理を。

【都市政策課長】 例えば後退部分、市道であっても農道であっても寄付する意思がございましたら市に言っていただいたら市でまた分筆なり登記なりはいたします。

【男性】 それがなかなか隅切りしてなかったらとらんとか、農道ではとらんとか言う。

【都市政策課長】 農道につきましても松山市が今、財産管理しておりますので、管財課ですけど、またご相談していただいたらと思います。市道については道路管理課でございます。

【男性】 松山市道と農道との管轄が違うでしょ。

【都市政策課長】 はい。総代さんですから農道部分はおわかりと思います。市道部分については当然松山市で管理してますし、図面もございます。ですからこれが農道か市道か言うのは多分総代さんはおわかりだとは思いますが。

【男性】 それはわかっとなんじゃけどね、道路後退したあとの市のフォローがないから3年も5年も経ったら自然と植木を植えたりブロックをついたり、結局4メートルに広がらんのですよ。もう20年経っても素鷲地区で1カ所も4メートルになったところは、部分的にはなつとりますけど、全体がなつとるとこないと思うんです。

【男性】 石手川から南の日の出町から素鷲校区は全然焼けてませんので、昔の

ままの道路事情になっとるわけです。日の出町では道路の中に私有地が残っていて市道にできないという事情があるわけです。だから、今言うように焼けてれば、かなり発展してたと思います。それと、石手川の南の土手を全然整備してないんです。これは西へ行ったら市坪の小野川と石手川の合流のところで三角地になるものですから西へは抜けられんわけです。ですから終戦後から全然南の土手は整備されてないわけです。だから、終戦時から生えてる松の木が道路の土手に生えたそのままになってるわけです。それを整備しようとして黄色いテープをそれぞれの木に貼ってはくれています。だけどこれは県道にも迷惑をかけてるし、そういうのを早く整備をすべきだと思います。焼けてないのが一番の原因ですから。焼けてれば道路広くなってるわけですから。

【男性】 今は、朝に晩に老人を送り迎えをするのが3台も4台も数珠つなぎで入ってきよんよ。それが離合できりゃいいんやけど、途中で広いところで離合せんと、特に立花はもうメインストリートいうても4メートルあるとこないんじゃけん。

【市長】 これはですね、実は宮前も狭い道路が多いんです。宮前のタウンミーティングでも出ました。道が広がったかなと思ったら石置いてしもてとか、同じ話が出ておりました。今、市役所の中でも検討しているところです。道の狭さについては都市計画がずっと関わってたんですかね。先ほど申し上げた42年12月27日に都市計画決定があって、44年に地元の反対もあって中止になって、それ以降、なかなか国も「うん」と言ってくれなくて見直しできてなかった。もう膠着状態になってたと思うんですけど、今回廃止の方向で、また道路の整備とか公園の整備とかやりやすくなると思いますので、はい、変えていく方向になると思います。

【都市政策課長】 また、建築後退については、今市長も言いましたように宮前地区でもそういう問題がございます。市としても積極的に指導もしていきたいと思います。同時に地元の総代さんとか力もお借りしながら、やっぱり、地域と行政が一体とならなければなかなか解決できない問題だと考えておりますので、これからまた市も現場に出向いてやっていきますのでご協力お願いします。

【男性】 協力はするんですけど市があとのフォローをする職員を1人つけてもろて。道路後退したらすぐ「市に寄付しませんか」いう手続きを誰もする人がお

らんから、私らがもう自分の名前が残るだけで、もうおじいさんの代からずっとはや3代に渡って名前昔から残っとるというのが、この間の境界確認の立ち会いのときも出てきた。おばあさんが出てきたけん、まだおばあさんの先代のおじいさんまで残っとるいうて話したら「私の生きとる間にはよしてくれんと、私の息子になったらまたわからんなるけんできんよ」いう話。市が1人そういう職員を付けてもろてなるべく早く。

【男性】 私老人クラブの会長をしておるもんですから、先ほどの応援弁士をしたいと思っております。これは参考までですけれど、去年でしたか、新聞を見ておりましたら伊方町、町が所有する土地にグループホームを建設されます。今年4月に完成予定だそうです。三崎港の近くにある約3,000平方メートル、900坪の町有地を埋立しましてグループホーム、つまり特養ホームを建設すると。今年の4月にオープンをする計画であるという記事が載っておりました。このホームの経営は、社会福祉協議会が行うということでございます。事業費は約7億円、うち国の補助が1億6千万円、残りは伊方町が負担をしますという記事が載っておりました。福祉協議会が運営することになりますと人の採用が要りますよね、約40名の町内の方の採用をなさったという記事が載っておりました。もう一つは愛南町が昨年の12月の定例町議会に、地元の深浦小学校跡地に町営の養護老人ホーム南楽荘を新築する事業費、約11億8千万円を計上したという記事が載っておりました。多くの方がご覧になったかと思えます。先般ある会合に出席いたしまして、松山市会議員3名おられまして、私が年長者なもので指名されましたので、松山市、安く公営の施設に入れるものをつくっていただけたらというのを老人ホームの会長としては要望したいという話をいたしましたら、3人が3人、口をそろえて「予算がありません」という回答でございました。司会者が私にあれで満足するんですかと言うので「全くいたしません」と。「このご説明は納得いたしません」いうふうにしてお別れしたわけですが、それが実は私の後輩でございまして皆3名が誠に残念でございました。そういうことであえて申し上げた次第でございます。そういうこともございましたのでご参考にしていただいて、よしなにお取り計らいの程、切に要望する次第でございます。失礼しました。

【市長】 今の応援弁士ありがとうございました。応援弁士とご自分でおっしゃってたので、はい。

【男性】 私は公民館の審議員しよるんですけど、今ここに入ってきました、スロープもできました。トイレもできたそうです、僕も入ったことないんですが、これ入ると扉がないんですね。男便所があって洋式トイレがある。これ1人しか入れんのじゃないかと入った人が。男が入ったら女の人が入れませんという要望がありました。ぜひこれを言うていただきたい。それと素鷲の公民館は年寄りが大分増えまして3階建てであるんで、そこへエレベーターをつけていただきたい。ぜひともこれは皆要望で。それともう1つ、素鷲校区の人が福音小学校に皆行っております。それを素鷲小学校が人数が減りまして、それをぜひ戻していただきたいというのが私の要望です。以上です。福音小学校を老人ホームにしてくださいという要望もありましたので、以上です。

【市長】 はい、わかりました。時間の関係がありますので、後日返答ということになるかもしれませんが、トイレのこと、公民館のエレベーターの話も出ておりました。今、松山市においては、例えばたくさん子どもたちが過ごす小学校中学校の耐震化を当初の計画より前倒ししてやっております。そして地域の方々が集まる場所である公民館の耐震化も前倒ししてやっております。いざというときに出勤できないと困りますので、消防団のポンプ蔵置所も前倒しで耐震化を進めております。そういうのと絡めて、中には公民館で3階に座敷があってお年を召した方が一生懸命階段3階まで登っている光景なんかも見ておりますので、そういうところは利用者の数も見ながらエレベーターを付けるということをしていきたいと思っております。中には公民館の中で男女のトイレが一緒でしにくいんっていう声もいただいているところもありますので、そういったところは、限られた予算の中で優先順位をつけてやっていこうと思っております。

今日は17カ所目のタウンミーティングでしたけれども、非常に特徴的なタウンミーティングでした。高齢者の方の話題がほとんどでした。ほかの地区では、別の話が多々出るんですけども、今日1回も発言していない課長というのが出ました。それくらい高齢者の話が多かったということで、素鷲の地域性も改めて知らせていただいたところです。最後なんでちょっと立たせていただきますけども、先ほど国において1千兆円の借金を抱えているという話を申しあげました。松山市の1年で入ってくるお金が歳入、1年で出ていくお金が歳出と言います。歳出が一番大きなウエイトを占めるのが民生費です。福祉にかかるお金です。これが

40パーセントを占めております。前の年と今の年とで50億増えたんです。その民生費の中には生活保護費があるんですけど、生活保護費は前の年と今の年で20億増えたんです。今そういう状態です。松山は中四国の中で比較的財政いいって言われてますが、そういう状況です。だから何もやらないってわけじゃないんですよ。選択と集中でなにをやらなければならないか、福祉の分野もあります、医療の分野もあります、もう本当にいろんな幅広い分野に行政またがっております。またお年を召した方のお声もあります、若い方の声もある、農業の分野の声もあれば中心地の声もある。そういう皆さんのお声をいただきながら、市役所で待ってたらお声はいただくことは少ないかと思えます。でもタウンミーティングという取り組みをして皆さんのところに出て行って、お声をたくさんいただく中で政策判断をしていきたいと思っております。たちまちできること、たちまちはできなくてしばらく経ったらできること、なかなかできないことあると思えますけども、これからもしっかりと皆さんのお声を聴く姿勢は大事にして政策をしていきたい、市の行政に当たっていききたいと思っておりますので、今日は長時間ありがとうございました。これからもしっかりと皆さんのお声をいただきながら、松山市政やっていこうと思っておりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。今日お答えできなかったことは必ず後日お答えいたしますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。

— 了 —